

氏名	戴 俊英
授与した学位	博士
専攻分野の名称	文学
学位授与番号	博甲第 2672 号
学位授与の日付	平成16年 3月25日
学位授与の要件	文化科学研究科人間社会文化学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	魏晉南北朝時代における埋葬形態とその変化
学位論文審査委員	主査・教授 永田 諒一 助教授 加治 敏之 助教授 渡邊 佳成 助教授 今津 勝紀 龍谷大学文学部教授 佐藤 智水

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

本論文は、中国魏晉南北朝時代における墳墓の埋葬形態の多様性とその意味を明らかにする試みである。(1)分析対象とした同時代の墳墓は 400 以上にのぼる。数十の墳墓の現地調査をまじえながら、既発掘墳墓について、それぞれの「調査報告書」、個別研究文献を収集した。(2)それらの墳墓について、基本的形態、構造、装飾、副葬品などの諸特徴を指標として、時系列的そして地域的な変化という観点に立ち分析を行った。(3)結果、同時代の墳墓の多様性は、文化構造の変化、とりわけ仏教の浸透、北方騎馬民族の中原進出による文化構造の変化から説明されることを明らかにした。

本文は、A4 版(40 字×40 行)の書式で 197 頁を擁し、それに、140 頁の図版が添付されている。内容は既発表論文を基本としているが、それらの構成、内容を補訂するとともに、新たに書きおこした幾つかの章、節を追加して、全体の統一性をはかっている。

構成と内容の概略は以下の通りである。

はじめに 魏晉南北朝における墳墓の研究略史と課題

中国および日本における魏晉南北朝時代墳墓の研究をたどると、その時代の墳墓が後漢時代のそれと大きく変わったこと、北方と南方の墳墓形態が異なることがわかるが、その理由については、一般的・概括的説明が試みられているだけである。そこで、本論では、個別墳墓の諸特徴分析に基づく実証的・統計的分析を行うことにより、上記事実を確認し、また、その理由を再考する。

第1章 魏晉南北朝における華北墳墓の形態

当該時代の華北(河南、河北、北京、山東、山西)の墳墓を分析、整理した。

華北全体として、例えば、多室墓・双室墓・単室墓の三種類併存から単室墓への収斂、墓槨の消滅と墓室構造への移行、直壁から弧壁への移行、平頂、弧頂、穹窿頂の併存から穹窿頂への収斂、玄室棺床の普及、画像石墓・紋様磚墓から壁画墓への移行、長斜坡羨道横穴式土洞墓における斜坡羨道への天井設定の普及などの特徴的变化が認められる。

しかし、河南における直壁の残存、幽州地区(北京)における長方刀形の磚製玄室の普及など、地区により個性も指摘されねばならない。

第2章 魏晉南北朝における華中墳墓の形態

第1章と同様の手法で、華中（江蘇・湖北・安徽）の墳墓を分析、整理した。

華中全体として、例えば、多室墓・双室墓・単室墓の三種類併存から単室墓への収斂、墓槨の消滅と墓室構造への移行など、華北と共通する傾向が多いものの、単純化された墳墓構造の優越、直壁長方形墓優越地区が多いことなどの個性が認められる。

第3章 魏晉南北朝における華南墳墓の形態

第1章と同様の手法で、華南（湖南・江西・浙江・福建）の墳墓を分析、整理した。

華南全体として、例えば、墓槨の消滅と墓室構造への移行、玄室棺床の普及など、華北、華中と共通する変化があるが、一方で、単純化された墳墓構造など、華中との共通傾向、更には、弧頂・穹窿頂・前弧後穹・前穹後弧の併存すから弧頂への統一傾向、直壁の優勢、祭台つき玄室棺床の普及、複雑な紋様磚画像磚で飾られた墳墓の卓越など、華南の個性も大きい。

第4章 魏晉南北朝における墳墓の性格

以上の分析結果の体系的把握を歴史学的視点から考察すると、以下のような理解と展望が可能になる。

墳墓の特徴は、新たな歴史的動向に主導的な役割を果たした地域から、その周辺地域へと波及していく傾向が認められる。しかし、変化を主導した地域の特徴とそれを受容した地域のそれとの間に差違も見いだされる。先進的な文化が徐々に周辺地域に受け容れられるのが一般的な趨勢と考えられるが、当時の社会変化は必ずしも斉一的なものではなく、特に統治者が伝統文化の代表として先進的な地域に古い文化を強制したり、逆に、中心部が周辺の地域からの影響を受け容れたと考えられる場合なども認められる。

また、時間的変化と地域的差異を手がかりとして、その背後にある政治的・社会的な動きとあわせて把握すると、魏晉南北朝時代に、墓葬に対する民衆意識の大きな変化があったことが浮かび上がってくる。とりわけ、仏教の伝来に伴う外来の思想・文化・意識形態の浸透と、頻繁に起こった民族移動に伴う北方騎馬民族習俗の取り込みは顕著である。

おわりに

本論文により、魏晉南北朝における墳墓の全般的かつ具体的な様相を明らかにするとともに、墳墓の形態的・地域的諸特徴から、当該時代の文化、民衆心性のありかたと変化にひとつの判断を示すことができた。

学位論文審査結果の要旨

2004年2月19日に、学内審査委員4名、招聘審査委員1名の計5名より、学位審査会を行った。審査の結果は以下の通りである。

本論文は、中国魏晉南北朝時代における墳墓の埋葬形態の多様性とその歴史的意味を明らかにすることを目的としている。(1) 既発掘の同時代墳墓 400 以上について、それぞれの「発掘調査報告書」、個別研究文献を収集した。(2) それらを基に、個々の墳墓の諸特徴を時系列的そして地域的な変化という観点から統計的分析を行った。(3) その結果の総合から、同時代の墳墓の多様性は、当時の文化構造の変化、とりわけ仏教の浸透、北方騎馬民族の中原進出による文化構造の変化から説明されることを明らかにした。

学位論文として確認すべき個々の項目の評価は、以下の通りである。

問題設定：先行研究の明快な整理に基づく本論文の問題設定は、的確かつオリジナルである。また、関連研究に関する著者の識見と洞察力の十分な水準を伺わせる。

使用資料：膨大な数の「発掘調査報告書」および個別研究文献を収集しており、知る限りでは、収集もれは見あたらない。また、このような体系的・網羅的な資料群に基づく先行研究はこれまで欠けていた。また、文献資料だけでなく、数十の墳墓については、(著者が陝西歴史博物館員として行った)現地調査をも踏まえており、そのことにより、文献資料だけに依拠する研究にありがちな、実態と著者のイメージとの食い違いを免れている。

分析：華北、華中、華南の三地域に区分し、それぞれについて章を当てること、章ごとに墳墓の形態的類型分けを行い、時系列に従って整理することは、いうまでもなく妥当な構成手法である。墳墓の諸特徴の指標設定は、多角的かつ基本的に適切である。設定指標に基づく個々の事例の判別、判断も基本的に適切である。ただ、一部の指標については、資料叙述の欠落のため、分析が不可能であった地域があるが、その点への言及と説明が不足しており、従って、「(学位論文内容の要旨)」からも推察しうるように)、分析結果説明の全体的整合性に若干の不満が残る。しかし、それは、分析の欠陥ではなく、統合的思考の〈今一步の不足〉であろう。また、本論文で用いられなかったが、有力な分析要素となるであろう指標が幾つか考えられるが、その指標設定と分析は、むしろ今後の課題と位置づけるべきであろう。

論証：墳墓の多様性を生んだ要因を、とりわけ仏教の浸透と北方騎馬民族の中原進出に求める洞察の方向性は評価に値する。墳墓の単純化傾向と仏教の来世観と結びつけた論考、中核地文化の同心円的地方伝達から説明した騎馬民族生活様式の波及論考など、論理展開も興味深く、また説得力をもつ。しかし、例えば、仏教文様であることの確定基準など、時折、論理を進める要素となる概念に厳密さが欠けることがある。

結論：地域的また時系列的な墳墓形態の変化をもたらした要因として、とりわけ、仏教の伝来と騎馬民族の進出に着目した結論は興味深い。また、自説を提示する際に、分析から明らかにされたことだけを語り、一面的な断定を避けるなど、研究に対する慎重な姿勢を伺わせる。

表現力：著者にとって日本語は外国語であり、そのハンディキャップは計り知れない。こなれない表現が時に見受けられるものの、全体として、明快な文章であり、著者の言いたいことは必要十分に表現されている。

総合的な評価は以下の通りである。着想、資料収集、分析については、オリジナリティと作業努力を高く評価することができる。分析結果の体系的、整合的整理とその解釈に幾分の不満を残す部分があるが、全体として、本研究成果は、中国史のみならず、古代東アジア史全体の当該研究発展に一つの寄与をなしうるものと評価することができる。

以上のような評価に従い、審査委員会は、本論文を博士学位論文として認定することに、全員一致で合意した。